

■公共交通ネットワーク再編案の検討について

○現行の交通ネットワークに係る現況・課題

公共交通現況 地域現況	<ul style="list-style-type: none">人口分布では、鉄道駅に近い町東部に集積する傾向にある。その他ではグランシア、三芳団地、西原住宅周辺も多い。上富地域の人口分布は北部（木ノ宮・みよし園）及び県道56号上にある程度集中している北永井地域では北永井集会所～宮本での利用が特に多く見られる。藤久保地域ではグランシアに近い平野、北新埜での利用が多く見られる。竹間沢地域では一部バス路線が通っているものの交通空白地があるため公共交通の要望はある。
アンケート 町民	<ul style="list-style-type: none">鉄道駅に比較的近いみよし台地域については徒歩、藤久保地域では徒歩＋自転車での移動が比較的多い。上富地域における自家用車利用への依存度が非常に高い。北永井、藤久保地域で1系統、竹間沢地域で5系統の利用が多い。藤久保地域を除く4地域で「運行本数」「運行時間帯」の満足度は低い。
ヒアリング 事業者	<ul style="list-style-type: none">ライフバスは1、4、5系統が比較的利用が多い路線であり、多くが通勤時間帯の利用である。乗務員不足・車両不足の影響で、増備は難しい。一般タクシーの利用も一定数みられる。北永井地域にて公共交通の充実に関する要望が強く出ている。

現況から見る課題と再編における方向性

- 公共交通が運行されていないエリアがある。
⇒将来的な高齢化による必要性の増加に向けて、町全域での輸送サービスの確保が重要。
- 現行の路線バスは1路線あたりの運行距離が長く、増便や運行間隔の調整などが難しい。
⇒車両増備・乗務員確保は財政面での負担が大きいことから、経路変更などの路線再編や、新しい交通の新規導入による補完を筆頭に検討。
- 地域拠点やコミュニティ拠点の立地状況、三芳SICの開発といった昨今のまちづくり方針への対応が必要である。
⇒上位・関連計画におけるまちづくり方針を踏まえて、再編案の検討を行うことが重要。

■公共交通ネットワーク再編案【短期的視野】

【背景】

路線バスの人材確保等運営が厳しくなっていく中で、路線バスの運営を維持しつつ、住民のニーズを満たすことのできる、より利用しやすい交通システムを早急に構築していく必要がある。

【想定】

- ・ 既存路線の存続
- ・ 既存のニーズへの対応
- ・ 交通空白地の解消
- ・ 朝夕の時間帯と日中の時間帯それぞれのニーズに応じた交通システムの構築

案①

【概要】 ライフバス6番線の再編

【メリット】 渋滞区間の回避、バス利用が根づく北永井地域におけるふじみ野駅アクセスの確保

【デメリット】 経路変更による所要時間の増加

案②

【概要】 デマンド交通

【メリット】 交通空白地域の解消、ライフバスの空白時間帯の補完

【デメリット】 デマンド利用方法の周知、路線バス利用への影響

案③

【概要】 町内拠点間循環バス

【メリット】 町内の施設間の移動が簡素化、既存路線のハブ化実現、交通空白地域の解消

【デメリット】 交通施策に対する事業費の増加

■公共交通ネットワーク再編案【短期的視野・案①～③】

デマンド交通の新設+6番線の再編

ライフバス6番線

ふじみ野駅～北永井集会所～三芳役場～鶴瀬駅
⇒渋滞区間の回避とともに、要望の強い北永井地域におけるふじみ野駅アクセスの確保のための経路変更を行う

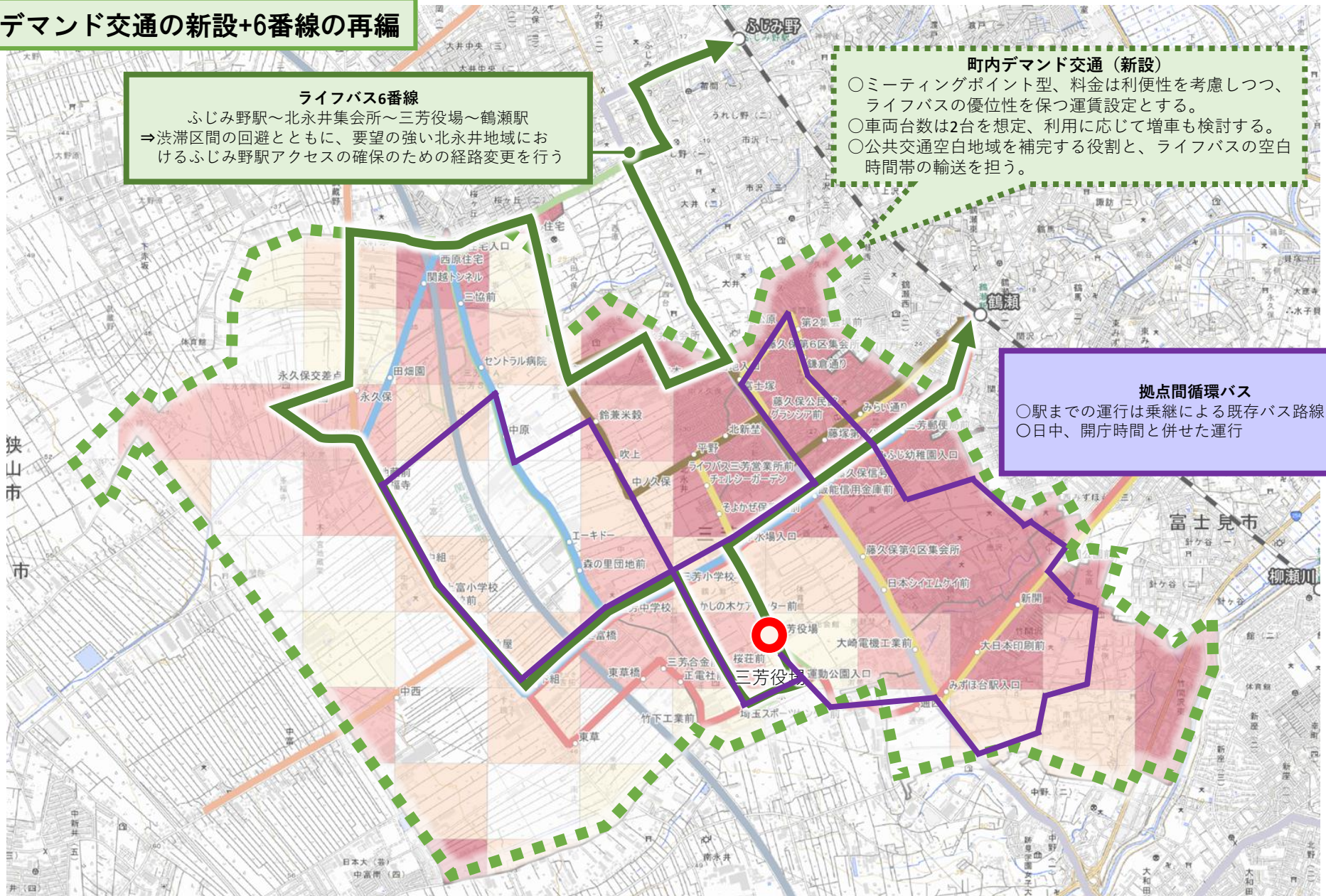
町内デマンド交通（新設）

- ミーティングポイント型、料金は利便性を考慮しつつ、ライフバスの優位性を保つ運賃設定とする。
- 車両台数は2台を想定、利用に応じて増車を検討する。
- 公共交通空白地域を補完する役割と、ライフバスの空白時間帯の輸送を担う。

拠点間循環バス

- 駅までの運行は乗継による既存バス路線の利用
- 日中、開庁時間と併せた運行

狭山市
市



■公共交通ネットワーク再編案【その他の視点】

視点① 公共交通補助制度の充実

【概要】年数回の不定期に利用される方をターゲットとして拡充の方向性の検討。
※利用数と事業費を考慮するなかで、デマンド交通との比較検討

視点② 補助路線の維持が難しくなった場合

【概要】人員確保など、路線の縮小における代替案の検討
※通勤通学の利用や日中利用など、利用形態に応じて代替となる交通手段を想定

視点③ 路線バス全体の維持が難しくなった場合

【概要】すべての路線の維持が厳しくなった場合の対応策の検討
※路線の距離短縮による便数の増加など、経営効率につながる再編を検討

視点④ 企業送迎バスに替わる企業参加型路線

【概要】送迎バスの維持が困難になる企業が増加した場合、企業の協力を得た路線の検討
※朝夕は企業送迎、日中は循環バスに利用など

視点⑤ ライドシェア普及

【概要】ライドシェアのエリア拡大に応じて、新たな交通手段として検討
※デマンド交通、公共交通補助制度との比較検討